

## 道の駅しもつまに「電気自動車用の急速充電設備」が整備されました

経済産業省と国土交通省は、電気自動車の早期普及を目指し、日本全国各地でも安心して電気自動車やプラグインハイブリッド自動車を使える社会実現のために、平成26年度補正予算で次世代自動車充電インフラ整備促進事業費補助金を設け、全国道の駅への充電インフラ整備に力を入れています。

このような流れの中で、道の駅しもつまにも「電気自動車の急速充電器」が1基設置されました。

使い方は、充電器本体の液晶画面に表示される手順に従って下記にどちらかの方法で充電してください。

### ①NCS加盟カードを使つての充電

NCSネットワークにつながっている全ての充電設備で使用できます。カードの発行には事前に会員登録が必要です。

### ②エコQ電による充電

スマートフォンまたは携帯電話をお持ちで、かつク



急速充電器の設置場所は、本館建屋北側の公衆トイレ付近です

レジットカードをお持ちの方は、その場でQRコードを読み取りクレジット情報などの必要事項を入力し、会員登録をすることで充電が可能です。料金は10分単位で、10分間180円(税込)。

問い合わせ 建設課 ☎45-8127

## いきいき茨城ゆめ国体2019

第74回国民体育大会 翔べ 羽ばたけ そして未来へ

## 茨城国体の成功に向けて「第74回国民体育大会下妻市準備委員会」設立

2019年(平成31年)に茨城県で行われる「第74回国民体育大会」(茨城国体)まで残り4年を切りました。

本市は同大会で、少年男子・女子ソフトボール競技(高校生クラス)をはじめ、県内在住者が対象のスポーツイベントを国体前に開催するデモンストラレーションスポーツとして「Eポート」の会場に予定されていることから、計画的に準備を進められるよう「第74回国民体育大会下妻市準備委員会」を設立。下妻公民館で2月25日、同委員会の設立総会および第1回総会を開催しました。構成メンバーは、行政、学校、企業、報道機関、まちづくり団体、スポーツ団体などの代表者87人となっています。

設立総会で、発起人代表の稲葉市長は「競技力の向上、



稲葉市長を議長にして審議を進める設立総会

地域スポーツの振興はもちろん、市全体が一丸となって盛り上がることでまちの活性化につなげたい。全国から来場する方々に真心を込めたおもてなしで、本市の恵まれた自然や歴史、文化等の地域



設立総会に駆け付けた茨城国体マスコットキャラクター「いばラッキー」

資源を大いにアピールしたい」とあいさつ。来賓の飯塚県議会議員は「平成13年開催の全日本大学選手権、14年開催の高校総体では地域の方々が応援隊を作り大いに盛り上げた。3年後の茨城国体でも以前に負けなくらい盛り上がる大会にしていきたい」と同委員会の設立を激励しました。

今後は、大会運営の基本方針に掲げられた①市民協働による大会、②笑顔とおもてなしの心があふれる大会、③下妻市の魅力を発信する大会、④生涯スポーツの振興につなげる大会、④簡素・効率化を目指す大会の5つの実施目標により、茨城国体の成功に向けてさまざまな取り組みが行われます。

問い合わせ 生涯学習課 ☎45-8997

## 受賞者紹介



瑞宝双光章  
(高齡者叙勲)

蘭部 順さん

元下妻市立東部中学校  
校長

(88歳・今泉)

蘭部さんは、昭和21年3月に真壁郡鳥羽村青年学校(旧明野町)に赴任されて以来、県西地区の小中学校に勤務。昭和56年7月に大和村立大和中学校の校長に就任し、昭和63年3月に下妻市立東部中学校の校長として退職まで42年間の教職を務められました。「無事に務めることができたのも、これひとえに皆さまのご協力と感謝しております」。



民間自治功労者表彰

稲葉 公男さん  
(本宗道)

稲葉さんは、平成8年に千代川村の本宗道南行政区長に就任して以来、平成18年1月の下妻市と千代川村の合併を経て現在まで、本宗道南行政区長、

本宗道・鬼怒代表区長として通算19年の長きにわたり、自治会組織活動の活性化に取り組まれています。

この間、下妻市自治会連合会の副会長や理事を歴任するほか、統計調査員として昭和57年度から平成14年度までの21年間、正確な調査業務を遂行するなど地方自治に貢献されました。

この度、その功績が認められ、茨城県市長会から民間自治功労者表彰を受賞されました。

## 教育の充実・人権尊重

## 教育力の向上と人権尊重の社会を目指して

市民文化会館で2月13日、健全な青少年育成や教育力の向上を図る「第33回下妻市教育振興大会」と、人権尊重の社会を目指した「下妻市人権教育講演会」が同日開催され、教育関係者や市民など約500人が参加しました。

教育振興大会では、参加者一同で青少年の健全育成を柱とする大会宣言を唱和した後、市の教育振興に尽力された32人が表彰されました。

また、「教育論文」の入賞者10人と「いじめ防止標語コンクール」の最優秀賞者2人が表彰されました。この標語コンクールは、児童生徒がいじめ防止に向けて標語を作成することを通して、いじめの問題について考えていくことを目的としています。



表彰を受けるPTA関係者

### ◇「いじめ防止標語コンクール」(最優秀賞)

いじめなし わたしの自まん みんなの自まん  
宗道小学校2年 堀江 七海さん  
声に出そう 心の叫び 受けとめよう 小さな声も  
東部中学校3年 海老澤 諒人さん

人権教育講演会では、落語家の笑福亭学光さんが、「～知らなかったではダメ～笑いでコミュニケーションづくり」と題して講演しました。

学光さんは、自身の経験から「人は先入観や偏見によって、知らず知らず他人を傷つけてしまう可能性がある。常に自分の言動が他人を傷つけていないか、考えることが必要」と出身の徳島県名物「阿波踊り」や腹話術などを交えながら、参加者の物事の見方や考え方をチェック。コミュニケーションづくりのコツを伝えました。小学校PTA役員経験を持つ磯山謙一さん(柳原)は「私たち大人の経験は時に偏見を生むことがある。もっと豊かな発想を持つことが人権だけでなく、子育ての問題にも重要だと再認識した」と話していました。



参加者への問い掛けから先入観や偏見を伝える学光さん